

平成 29 年度第 1 回学校関係者評価委員会 議事録

日 時：平成 29 年 6 月 23 日（金）15:00～16:30

会 場：名古屋芸術大学保育専門学校 本館 2 階会議室

出席者：川杉、家村、土岐、藤澤、杉浦、木村、加藤、畔柳

議 長：藤澤校長 （記録：畔柳）

1. 開会のあいさつ

副校長より開会の挨拶があった。

2. 校長あいさつ

校長から出席者への挨拶後、「本年 2 月に職業実践専門課程の認可を得た。東海 3 県では保育系では初めてである。さらにご助言をいただき改革を進めたい。」の挨拶があった。

3. 委員の委嘱並びに出席者の紹介

「名古屋芸術大学保育専門学校関係者評価委員会内規」（資料 1）の説明後、資料 2 に基づき学校関係者評価委員の自己紹介があった。

4. 本校の概要説明

(1) 平成 29 年度 教育目標・指導理念・求める学生像・めざす学生像・経営方針・職業実践専門課程の認定について、資料 3 を基に校長より、平成 29 年度の教育概要についての説明があった。続いて、校長より「職業実践専門課程にどう取り組んで行くか」について資料を基に説明があった。

(2) 平成 29 年度学生数状況（資料 4）について、木村より資料を基に、6 月 1 日時点での保育科、保育科第二部の学生数の説明があった。

(3) 平成 28 年度就職状況（資料 5）について、木村より資料を基に、平成 28 年度の保育科、保育科第二部の卒業生の就職状況の説明があった。

杉浦より、別添冊子資料（平成 29 年度学校パンフレット、平成 30 年度入学生学生募集要項）の紹介があり、校長より以下の補足説明があった。

パンフレットは昨年度よりページ数が減った。スマホ対策に力を入れた。本校の特長を 3 つにまとめ簡潔にした。①同一敷地内に幼稚園と保育園を持つ。②授業料が低い。③卒業と同時に幼稚園教諭と保育士を取得。

(4) 教育課程について、木村より、冊子資料（学生便覧・講義要綱）の紹介があった。

① 平成 29 年度前期・後期時間割表（資料 6）について、木村より資料を基に平成 29 年度の時間割の説明があった。

② 平成 29 年年間行事計画（資料 7）について、木村より資料を基に平成 29 年度の年間行事計画についての説明があった。

(5) 自己評価、学校関係者評価について（資料 8）について、畔柳より平成 28 年度自己点検、自己評価と学校関係者評価についての説明があった。

① 学生による授業評価について（資料 9）、杉浦より平成 23 年～28 年までの学生による授業評価の得点の推移についての説明があった。

(6) 平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録と意見の反映（資料 10）について、杉浦より、資料に基づき平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録とその意見の反映についての説明があった。

5. 協議

(1) 説明に関する質疑・意見

意見：プレ実習は他校にない取り組みである。同一敷地内で慣れ親しんだ園での実習は

他園での実習より安心して取り組むことができ成果が上がると思うが、受験生が実習の多いことをマイナスとしてとらえてしまうことがないか。プレ実習の重要性を知らせるべきではないか。

応答：職業実践専門課程を進めていく上で実習の充実は課題である。また、将来めざしている専門職大学の短大では、約 300 時間が現場と連携した授業として設定されているが、本校の場合、現状よりも少し増やせは十分クリアできるレベルである。プレ実習で滝子幼稚園、たきこ幼児園に全学生が出向いている。滝子幼稚園では本実習の教育実習 I は全学生が受けている。プレ実習では学生が子どもと遊び楽しいなという感覚を持たせ、学習に主体的に取り組むという姿勢を大事にしたい。難しいことはやってはいけない。

意見：入学者に対して、プレ実習があることがプラスであると理解してもらうことが大切である。

応答：そうしていきたい。保育者を希望しているので早くから子どもに会わせたい。そのため基本をきちんと指導していく。とは言え、教師からの指示は少なくし、学生の思いを大切にしている。

応答：学生はプレ実習をとっても勉強になると評価している。実習内容の制約が余りないので、自分の思いで見ることができるということを、よい評価の理由としている。

意見：入学希望者にとっては、プレ実習がネガティブな評価にはならないものであることは確かである。

応答：プレ実習の記録は感想あるいは、今日気づいたことだけである。それをグループ活動で整理発表させ、園の担当教員に質問し、まとめるというスタイルをとっている。実習連で使っている実習ノートは、書くことが得意な学生は良いが、苦手な学生にとっては大変である。

意見：プレ実習の良いところをアピールするとよい。

意見：他の学校でもプレ実習をしているところがある。

応答：附属を持っているところは、行えると思うが、全学生を受け入れるのは大変なことである。本校は園が近いところにあり、学生数も多くないので条件が良い。

応答：週に一日、園に行くという実習のスタイルは他校ではなかなか出来ない。文科省もそういったやり方を認めている。11月に行う 60 周年記念特別行事の時は、1 年生を 2 グループに分け滝子幼稚園とたきこ幼児園で実習をしているところを、外部の人に参観してもらおうと思っている。本校の学生にも両園でアルバイトをしている学生は多い。

応答：夜間部では 8 割、昼間部でも 3 割ほどが、幼稚園・保育園・施設等の現場でアルバイトしている。

応答：現在、滝子幼稚園では 4 歳・5 歳は 35 人の園児を一人で見ているが大変である。こういった状況を不安に感じる学生もおり、幼稚園への就職者が少ない理由でもある。昨年度は幼稚園には 10 名に満たない就職者であった。幼稚園への就職者をもっと増やしたい。

意見：今年の入学生は、他校よりどの点が良いと感じているのか。その理由は何か。

応答：オープンキャンパス等の参加者は本校が良いと言ってくれる。先生がフレンドリーであり、参加する在校生が一生懸命に説明してくれて印象が良い。コンパクトで使いやすく、樹木の緑もあること等を理由に挙げている。

応答：受験生は良く分析し他校と比較している。本校の特長は、幼稚園と保育園が同じ敷地内にあり、その現場と授業とが繋がっているところ、授業料が低いところ、先生と学生の関係が良く、ゆったりと落ちついて保育の勉強が出来ることである。

ると言っていた。

応答：本校の学費は、幼稚園免許と保育士の両方を取得する金額を出している。通信教育等の費用は不要である。

応答：高校訪問時、高校の先生には、名古屋芸術大学子ども発達学部3年への編入が可能であることに興味を持ってもらっている。また、校長が自ら実習の指導をしていることには好評価をいただいている。

意見：教育実習では、現場の若い先生方の雰囲気を見ることが出来る。気持ちが同じフィールドであるから教える側も教えられる側も親密感があるように見える。

応答：マナーが身につけている学生が多いように見える。滝子幼稚園の職員は、一人を除いて全て本校の卒業生である。たきこ幼児園も新設時6名の学生を採用してもらった。今年も3名採用されたので8割以上本校の卒業生である。そういった親密感はある。両園とも職員は鍛えられている。また、幼稚園の3階に0、1、2歳児の保育所を10年契約の賃貸型で新設した。ここでも典型的な乳児保育を見ることができ、実習も受けてもらえる。両園とも、環境設定の工夫をして、子どもの活動を支援していくようにしている。

意見：学生による授業評価について先生方はどう思われているのか。また、実習には実習生への評価がある。ある学校の実習生の自園での評価においてDがつき、その理由について学校からの問い合わせがあった。

応答：学生がつけた授業評価に対して先生方は謙虚に受け入れている。特に問題になったことはない。また、実習評価については、園ごとに評価観点が異なっており、大事にしていることを基準に評価される。D評価は致命的である。本校でも実習途中でリタイアしたりD評価を受けるケースがあるが、そういった場合、再指導をした後、両園で2月に再実習させ卒業までに間に合うようにしている。滝子幼稚園での実習は最初の実習なので、保育に興味を失うような実習はさせないようにしている。

意見：実習の記録は大変だと思うが、一つひとつやること自体が大切であり、その積み重ねが大切だと思う。丁寧に書く人、ポイントを押さえて書く人と様々だが、夜間部の学生のように社会に出ている人は、社会的なマナーが身に付いている。マナーのある人は好感が持てる。先を見越した行動が取れる学生が良い。

応答：夜の学生は学ぶ気持ちが強い。こうした学生の良い点をさらに伸ばし、他校との差別化を図っていきたい。

・次回開催 平成29年11月27日(月)午前～

創立60周年記念行事の日であり、午前中は学生の実習の様子と両園の公開保育を見ていただき、ご意見等をいただく予定である。